



令和7年9月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

令和7年8月8日

上場会社名 KLASS株式会社
コード番号 6233 URL <https://www.klass-corp.co.jp>
代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 頃安 雅樹
問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役管理本部長 (氏名) 曾谷 雅俊 TEL 0791-62-1771
配当支払開始予定日 —
決算補足説明資料作成の有無：無
決算説明会開催の有無：無

（百万円未満切捨て）

1. 令和7年9月期第3四半期の連結業績（令和6年10月1日～令和7年6月30日）

（1）連結経営成績（累計）

（％表示は対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	％	百万円	％	百万円	％	百万円	％
7年9月期第3四半期	7,109	△0.2	222	197.5	216	185.5	149	322.3
6年9月期第3四半期	7,125	0.7	74	△58.9	75	△52.7	35	△66.7

（注）包括利益 7年9月期第3四半期 161百万円（218.0％） 6年9月期第3四半期 50百万円（△59.7％）

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
7年9月期第3四半期	27.79	—
6年9月期第3四半期	6.58	—

（2）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	％
7年9月期第3四半期	9,889	3,040	30.7
6年9月期	10,124	2,933	29.0

（参考）自己資本 7年9月期第3四半期 3,040百万円 6年9月期 2,933百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
6年9月期	—	0.00	—	10.00	10.00
7年9月期	—	0.00	—		
7年9月期（予想）				10.00	10.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 令和7年9月期の連結業績予想（令和6年10月1日～令和7年9月30日）

（％表示は対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	％	百万円	％	百万円	％	百万円	％	円 銭
通期	10,150	3.8	355	208.0	350	212.4	220	188.4	40.81

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更：無
新規 ー社 (社名) ー、除外 ー社 (社名) ー

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- | | |
|----------------------|-----|
| ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 | : 有 |
| ② ①以外の会計方針の変更 | : 無 |
| ③ 会計上の見積りの変更 | : 無 |
| ④ 修正再表示 | : 無 |

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	7年9月期3Q	5,391,000株	6年9月期	5,391,000株
② 期末自己株式数	7年9月期3Q	77株	6年9月期	77株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	7年9月期3Q	5,390,923株	6年9月期3Q	5,390,923株

※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー：無

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P.3「1. 経営成績等の概況（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 当四半期の経営成績の概況	2
(2) 当四半期の財政状態の概況	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(会計方針の変更に関する注記)	8
(セグメント情報等の注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	11
(継続企業の前提に関する注記)	11
(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	11

1. 経営成績等の概況

(1) 当四半期の経営成績の概況

当第3四半期連結累計期間におけるわが国の経済は、大企業の設備投資や個人消費の緩やかな持ち直し、好調なインバウンド需要等により、景気は緩やかな回復基調を続けましたが、当社の主たるマーケットである住宅関連市場は、本年4月からの省エネ基準適合義務化前の着工増に対する反動減に加え、建設コストの高止まりや住宅ローン金利の上昇等は引き続きマイナス材料となりました。また、米国の大幅な関税引き上げ政策は、景気回復の不透明感を増すものと懸念されています。

そうした経営環境の中、当第3四半期連結累計期間の経営成績は、プロフェッショナル、コンシューマ、ニュー・インダストリーの3セグメントが前年同期を上回ったものの、インダストリーセグメントが大型案件の端境期となり、売上高7,109百万円（前年同期比0.2%減）と前年同期を下回りました。一方、損益面は、営業利益222百万円（同197.5%増）、経常利益216百万円（同185.5%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益149百万円（同322.3%増）となり、本年5月に上方修正した業績予想の着実な達成が可能な業績を確保することができております。

セグメント別の経営成績は以下のとおりであります。

①プロフェッショナルセグメント

インテリア事業は、第2四半期に、本年4月の価格改定前の駆け込み需要で自動壁紙糊付機や工事施工用の消耗品の売上が増加したため、その反動減対策として工具等の販売を強化しましたが、十分にカバーするまでには至りませんでした。その結果、当第3四半期の業績はやや低調に推移しましたが、当第3四半期連結累計期間の売上高は前年同期比で5.9%増となりました。損益面においても、販売価格の見直しと相まった利益率改善の一方で、前期の商号変更費用といった一時費用の発生も無かったこと等から、まず堅調に推移しております。畳事業は、引き続き当社が強みとする畳店への構造改革提案（当社の畳製造機械を活用した経営と生産の近代化の提案）や、畳店向けの工具等のネット販売により売上拡大を図っておりますが、畳店の投資意欲減退の影響は依然として続いており、売上高・損益ともに低調な状況が続きました。しかしながら、期中に新たな「中小企業省力化補助金」の案件採択が続いており、当期末に向けて業績回復を期しているところです。当期からスタートしたソリューション&ネットワーク事業は、インテリア事業・畳事業と協調して、見積・請求管理クラウドツールの販売や、内装店・畳店向けのデジタルプリンターの販売等を中心に事業の拡大を図っておりますが、依然として契約先の確保等が事業運営に必要な規模には至ることができておりません。その結果、プロフェッショナルセグメントの売上高は5,083百万円（前年同期比2.4%増）、営業損失48百万円（前年同四半期は営業損失142百万円）となりました。

②コンシューマセグメント

コンシューマ事業は、棺用量では、販売増と生産の国内シフトに伴う利益率アップが相まって引き続き好調に推移しております。オリジナルな特殊機能畳等の商品販売では、昨年好調であった防音・防振床材は、フィットネススクラブの設置が路面型の小型店中心となり需要がやや低下しておりますが、ゴルフ練習用の防球マットを新たに開発するなど、防音・防振関連商品を中心にスポーツ関連市場の拡大を図っております。一方で宿泊施設向けは順調に推移し、全体の売上は前年同期を上回っております。住宅向けの畳替え需要とソーラー・エネルギー事業は依然として回復の途上です。兵庫県佐用町に設置しているメガソーラー発電所「三日月サンシャインパーク」をはじめとする売電事業は、順調に進捗しました。その結果、コンシューマセグメントの売上高は554百万円（前年同期比3.5%増）、営業利益11百万円（前年同四半期は営業損失8百万円）となりました。

③インダストリーセグメント

産業機器事業は、当社の得意とするコア技術の適用分野における設備投資需要の拡大が続いており、第2四半期には、当社の持つシート状素材のハンドリング技術（積層・巻取）に着目して開発依頼のあった脱炭素関連装置を出荷するなど、従来からの二次電池製造装置に加え、各方面からの引き合いも依然として活発です。当第3四半期は大型案件の端境期となり売上高は低調となりました。一方、当社のコア技術に問題解決の可能性を見出したユーザー側からの案件問合せ等により、来期以降の出荷案件の受注が順調に進捗しております。食品機器事業は、本年4月オープンの大阪・関西万博会場やGLION ARENA KOBE内の店舗にマルチディスペンサーが設置され、その話題性と相まって、新規案件や機器更新案件の引き合いが活発化してまいりました。その結果、インダストリーセグメントの売上高は885百万円（前年同期比25.7%減）、営業利益169百万円（同11.5%減）となりました。

④ニュー・インダストリーセグメント

令和2年10月1日に子会社化した株式会社ROSECCを当セグメントに位置付け、得意とする自動車関連業界に加えて、住宅設備関連業界の開拓を進めております。当第3四半期も、第2四半期に続いて自動車関連業界向けの大型機や消耗品の受注が好調に推移するとともに、引き続き第4四半期の好調も見通せております。その結果、ニュー・インダストリーセグメントの売上高は585百万円（前年同期比35.3%増）、営業利益81百万円（同147.9%増）となりました。

(2) 当四半期の財政状態の概況

①資産の部

当第3四半期連結会計期間末の資産につきましては、前連結会計年度末に比べ234百万円減少し、9,889百万円となりました。資産のうち流動資産は、棚卸資産が48百万円増加しましたが、売上債権が269百万円減少したこと等により、249百万円の減少となりました。固定資産につきましては、有形固定資産が49百万円減少しましたが、投資その他の資産が58百万円増加したこと等により、14百万円の増加となりました。

②負債の部

当第3四半期連結会計期間末の負債につきましては、前連結会計年度末に比べ342百万円減少し、6,848百万円となりました。負債のうち流動負債は、未払法人税等が57百万円増加、賞与引当金が39百万円増加しましたが、仕入債務が229百万円減少、その他が65百万円減少したこと等により、204百万円の減少となりました。固定負債につきましては、その他が25百万円増加、役員退職慰労引当金が14百万円増加しましたが、長期借入金が188百万円減少したこと等により、137百万円の減少となりました。

③純資産の部

当第3四半期連結会計期間末の純資産につきましては、前連結会計年度末に比べ107百万円増加し、3,040百万円となりました。これは主に、利益剰余金が95百万円増加したことによるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、令和7年5月15日に公表いたしました令和7年9月期通期の連結業績予想から変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (令和6年9月30日)	当第3四半期連結会計期間 (令和7年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,475,557	1,499,328
受取手形、売掛金及び契約資産	1,452,787	1,220,749
電子記録債権	1,153,986	1,116,191
商品及び製品	887,935	905,814
仕掛品	158,350	240,171
原材料及び貯蔵品	327,457	276,587
その他	204,850	152,974
貸倒引当金	△591	△487
流動資産合計	5,660,335	5,411,328
固定資産		
有形固定資産		
建物（純額）	1,712,954	1,655,201
土地	1,413,808	1,413,808
その他（純額）	571,136	579,450
有形固定資産合計	3,697,898	3,648,460
無形固定資産		
その他	57,935	63,089
無形固定資産合計	57,935	63,089
投資その他の資産		
その他	708,218	766,751
投資その他の資産合計	708,218	766,751
固定資産合計	4,464,053	4,478,300
資産合計	10,124,388	9,889,629
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	694,722	574,926
電子記録債務	983,230	873,624
短期借入金	1,900,000	1,900,000
1年内返済予定の長期借入金	258,938	251,258
未払法人税等	15,136	72,902
製品保証引当金	12,218	12,675
賞与引当金	152,771	192,630
役員賞与引当金	6,500	6,600
その他	420,178	354,252
流動負債合計	4,443,696	4,238,870
固定負債		
長期借入金	1,951,669	1,763,225
役員退職慰労引当金	300,000	314,300
退職給付に係る負債	462,770	473,871
その他	32,912	58,582
固定負債合計	2,747,351	2,609,979
負債合計	7,191,048	6,848,850

(単位：千円)

	前連結会計年度 (令和6年9月30日)	当第3四半期連結会計期間 (令和7年6月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	631,112	631,112
資本剰余金	481,062	481,062
利益剰余金	1,840,105	1,935,992
自己株式	△49	△49
株主資本合計	2,952,232	3,048,119
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	17,894	22,904
退職給付に係る調整累計額	△36,787	△30,245
その他の包括利益累計額合計	△18,892	△7,340
純資産合計	2,933,339	3,040,778
負債純資産合計	10,124,388	9,889,629

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 令和5年10月1日 至 令和6年6月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 令和6年10月1日 至 令和7年6月30日)
売上高	7,125,978	7,109,987
売上原価	4,964,433	4,822,449
売上総利益	2,161,545	2,287,537
販売費及び一般管理費	2,086,821	2,065,243
営業利益	74,724	222,294
営業外収益		
受取利息	1,002	539
受取配当金	343	338
受取保険金	2,709	449
補助金収入	24,678	26,201
その他	7,440	5,304
営業外収益合計	36,174	32,833
営業外費用		
支払利息	19,921	31,159
為替差損	9,560	1,222
支払手数料	4,290	4,278
その他	1,393	2,268
営業外費用合計	35,165	38,928
経常利益	75,733	216,199
特別利益		
固定資産売却益	—	727
特別利益合計	—	727
特別損失		
固定資産除却損	3,219	—
棚卸資産廃棄損	7,085	—
特別損失合計	10,304	—
税金等調整前四半期純利益	65,428	216,926
法人税、住民税及び事業税	25,594	86,964
法人税等調整額	4,361	△19,834
法人税等合計	29,956	67,130
四半期純利益	35,472	149,796
非支配株主に帰属する四半期純利益	—	—
親会社株主に帰属する四半期純利益	35,472	149,796

(四半期連結包括利益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 令和5年10月1日 至 令和6年6月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 令和6年10月1日 至 令和7年6月30日)
四半期純利益	35,472	149,796
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	10,969	5,009
退職給付に係る調整額	4,304	6,542
その他の包括利益合計	15,273	11,552
四半期包括利益	50,746	161,348
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	50,746	161,348
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(会計方針の変更に関する注記)

(「法人税、住民税及び事業税等に関する会計基準」等の適用)

「法人税、住民税及び事業税等に関する会計基準」(企業会計基準第27号 令和4年10月28日。以下「令和4年改正会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しております。

法人税等の計上区分(その他の包括利益に対する課税)に関する改正については、令和4年改正会計基準第20-3項ただし書きに定める経過的な取扱い及び「税効果会計に係る会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第28号 令和4年10月28日)第65-2項(2)ただし書きに定める経過的な取扱いに従っております。これによる四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

(セグメント情報等の注記)

I 前第3四半期連結累計期間(自 令和5年10月1日 至 令和6年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:千円)

	報告セグメント				合計
	プロフェッショナル	コンシューマ	インダストリー	ニュー・インダストリー	
売上高					
製品	1,430,304	361,047	1,159,214	267,180	3,217,747
商品	3,471,002	138,708	11,957	128,433	3,750,102
その他	62,675	36,600	21,790	37,062	158,129
顧客との契約から生じる収益	4,963,982	536,356	1,192,962	432,677	7,125,978
その他の収益	—	—	—	—	—
外部顧客への売上高	4,963,982	536,356	1,192,962	432,677	7,125,978
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	55	2,231	2,286
計	4,963,982	536,356	1,193,017	434,908	7,128,264
セグメント利益又は損失(△)	△142,077	△8,188	192,014	32,974	74,723

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

利益	金額
報告セグメント計	74,723
セグメント間取引消去	0
四半期連結損益計算書の営業利益	74,724

Ⅱ 当第3四半期連結累計期間（自 令和6年10月1日 至 令和7年6月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位：千円)

	報告セグメント				合計
	プロフェッショナル	コンシューマ	インダストリー	ニュー・インダストリー	
売上高					
製品	1,449,826	354,896	844,353	436,193	3,085,269
商品	3,582,101	162,282	17,039	111,736	3,873,160
その他	51,856	37,736	24,529	37,435	151,558
顧客との契約から生じる収益	5,083,784	554,915	885,921	585,365	7,109,987
その他の収益	—	—	—	—	—
外部顧客への売上高	5,083,784	554,915	885,921	585,365	7,109,987
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—
計	5,083,784	554,915	885,921	585,365	7,109,987
セグメント利益又は損失（△）	△48,968	11,911	169,981	81,732	214,657

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容（差異調整に関する事項）

(単位：千円)

利益	金額
報告セグメント計	214,657
セグメント間取引消去	7,636
四半期連結損益計算書の営業利益	222,294

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費（無形固定資産に係る償却費を含む。）は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 令和5年10月1日 至 令和6年6月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 令和6年10月1日 至 令和7年6月30日)
減価償却費	182,637千円	137,924千円